

そうか生きものだより 第8号

編集 そうか生きもの調査編集委員会/草加市環境課 発行 草加市

〒340-8550 草加市高砂一丁目1番1号 TEL048-922-1519 / FAX048-922-1030

HP <http://www.city.soka.saitama.jp> E-mail kankyoka@city.soka.saitama.jp



【ムナグロ】

初夏、田植えが始まる頃、柿木田んぼに、毎年のように渡りの途中のムナグロがやってきます。

約3週間滞在し、体力をつけた旅立ってゆきます。全長は約24cm。顔から腹までの下部分が黒いのが特徴です。そのムナグロが、草加で唯一の飛来地である柿木田んぼで見られるのも、もしかしたら今年が最後になるかもしれません。なぜ

ならこの田んぼに産業団地を作るため、多くの田んぼが野ざらし状になっています。シギ、チドリなどの野鳥は広大な田んぼ、湿地がなければ立ち寄ってくれません。その貴重な田んぼが半減され、環境が大きく変わった今、果たして今年は例年通りに飛来してくれるかが心配でしたが、4月20日、飛来が確認されました。

主な内容

- | | |
|---------------------|----------------|
| ① ムナグロ (近岡 勝夫さん撮影) | ⑤ こんな生きものを発見 |
| ② 生物多様性そうか戦略について | ⑥ 身近な生きものの見分け方 |
| ③ 第6回そうか生きもの集合調査を開催 | ⑦ 私の生きもの観察路 |
| ④ 参加者の声 | ⑧ 読者からの投稿写真 |

生物多様性そうか戦略について

加納 正行さん

〔そうか生きもの調査運営委員会委員長〕

この度、草加市は「生物多様性そうか戦略」(以下戦略)を策定しました。**生物多様性とは、生きものや生態系の豊かさを表す言葉で、単に緑があるとか生きものがあるだけのことでなく、それぞれの土地で進化してきた一つひとつ「個性」をもった多様な生きものが、他の生きものと直接的、間接的に「つながり」を持って生きている状態をいいます。**

そのためには、様々な自然環境が必要です。この戦略の策定の背景には、私たちの日常生活には多様な自然や生きものたちからの恩恵を受けていること、この恵みを将来にわたり享受し続けるためには、生物多様性を保全することが必要・不可欠であることがあります。戦略の冒頭にある草加市長の言葉の中にも、施策の展開を図るとしています。

今回の戦略は理想のものとはいえませんが、市と市民の“特に環境審議会、草加環境推進協議会”のご努力によりこの戦略が出来たことを感謝します。

戦略には草加市の自然に対する考え方、守り、育てるという仕組みが盛り込まれています。表紙には猛禽類をはじめとする希少種の写真が掲載され、これらを守るための自然環境の保全・再生が示唆されています。草加の自然、生きものを守るということは、その基盤となる生育・生息環境を守り・再生しなければこの戦略の目的を達成でき

ません。

戦略の達成目標としては①行政・市民・企業が取り組むこと。②基盤となる緑地の確保③生息・生育地の保全・再生・創造④ネットワークの形成⑤子供がのびのびと育ち、自然の恵みを享受できる場所の確保などなどが掲げられています。

主な実行計画としては、保存樹林保全のための支援や新たな指定、中川河畔林の保全。河川環境は生物多様性に配慮した維持管理保全の推進。キタミソウ自生地をはじめとする、地域の絶滅が危惧される生きものたちの生息・生育地の保全。生物多様性に配慮した事業所・街中などの緑地整備推進。ビオトープの維持管理・活用。生物多様性に配慮した生態系ネットワーク整備(田んぼ他)。官民協働の推進などで外来種防除が取上げられています。

残念なことにこの戦略には、具体的な行動計画や行程表が見られません。戦略の目的達成の必要条件である実行計画の推進状況・進捗確認などができてこそ草加市の生物多様性が守れます。私たちは市と協働してこの草加の自然の生きものが少ない“みどり”や“自然風”でなく、生物多様性に富んだ本当の自然を、次世代に自信をもって渡さねばなりません。戦略策定は手段であって目的ではありません。ぜひこの戦略を読んでいただき、基本理念の「草加の自然の恵みを次世代に引き継げるよう」共に努力しましょう。



ツミ



ノウルシ

生物多様性そうか戦略策定しました 事務局

本市は、本市の環境像である『人と自然が共に生きるまち そうか』の実現を目指し、『**草加の自然の恵みを 次世代に引き継ぐ**』ことを基本理念として、平成31年3月に生物多様性そうか戦略を策定しました。

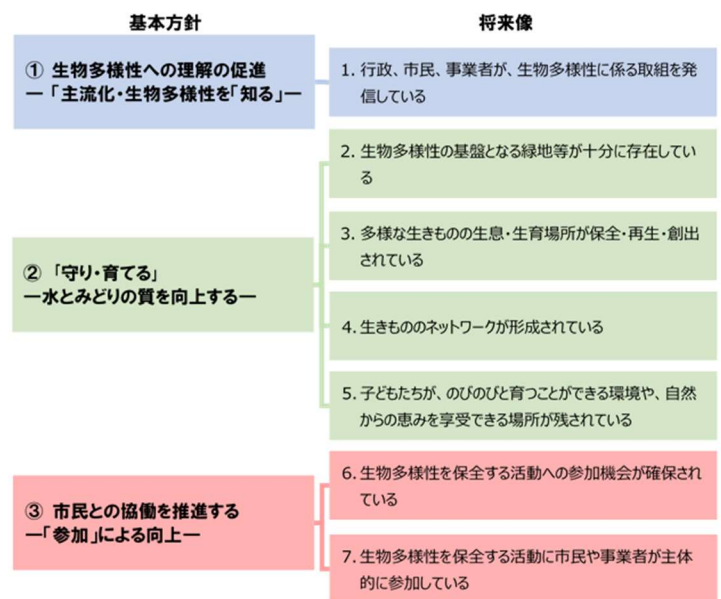
本戦略は、生物多様性基本法に基づく生物多様性の保全と持続可能な利用に関する基本的な計画で、生物多様性国家戦略を基本とし、本市の地域特性を活かした計画となっています。

本戦略は、①『知る』～快適な暮らしを続けるために、生物多様性が喪失すると私たちの生活に大きな影響が及ぶことを認識すること。②『守り、育てる』～草加らしい自然を次世代に残すために、失われつつある水とみどりのネットワークを保全、再生、創出していくこと【生きものの重要な生息場所を保全していくこと】。③『参加する』～生物多様性の恵みを将来にわたり受けるために、次の世代を担う若者や子どもたちに生物多様性の重要性を伝え、自然や生きものと触れる機会を残していくこと。を策定の意義として、掲げています。

そして、都市化が進み、多くの自然環境が失われてきた本市の生物多様性を保全するためには、本市のわずかしかな自然が残っていないという現状や生物多様性の重要性を認識する必要があります。

そのため、まずは、生物多様性を「知る」ための取組を重点的に進め、市民や事業者等に生物多様性に対する理解の促進を図ることが重要となります。それから、市民・事業者・市の協働により、生きものを「守り、育てる」、生物多様性の保全に「参加する」といった取組を進め、生物多様性の保全に向けた基盤づくりを行っていくことを計画しています。

さらに、本市では、基本理念に基づき、次の3つの基本方針と7つの将来像を設定しています。



本戦略では、7つの将来像を達成していくための保全実行計画として、重点プランを設定していますが、これら一つ一つの施策の実行には、市民、事業者、広域的な連携など多くの方々との協力がなくては実行できません。今こそ、市民、事業者、行政がそれぞれ主体的に生物多様性に関する情報発信を行い、相互に自分たちができることを補完しあえる関係を築いていくことの重要性が益々高まっています。

また、少子高齢化社会の到来により、自然の守り手がさらに不足していくことが予想されていますので、本戦略を通して、生物多様性に係る人材育成を計画的に進め、生物多様性の保全や維持に関わる市民の輪を拡げていきます。

『草加の自然の恵みを 次世代に引き継ぐ』ために、市民の皆様、事業者の皆様とともに協力して、施策の展開を図ってまいります。

なお、本戦略は草加市ホームページ、市役所情報コーナー、中央図書館などで閲覧できます。

第6回そうか生きもの集合調査を開催 2019.2.24

矢島 民夫さん

平成30年度第6回の調査会が、2月24日(日)昨年に続き、青柳地区の葛西用水で実施されました。

当日は天候にも恵まれ、風もなく暖かな観察日和となりました。集合時間の8時50分には、一般の参加者を含め44人(お子さんは10人)が集まり、川柳文化センター受付ロビーは、満員状態でした。

開会あいさつ、諸注意の後2グループに分かれ9時に川柳文化センターを出発しました。

葛西用水に出ると右岸の脇道を、コサギやカルガモなどを観察しながら南下しました。途中東京外かく環状道路を渡り、青柳小学校脇のなかよし橋付近から葛西用水内に入り、ルーペを使いながらキタミソウの小さな花を観察しました。

キタミソウ(国のレッドリスト絶滅危惧Ⅱ類、埼玉県の絶滅危惧1B類指定)は1952年、大井氏により越谷市が新産地として報告されてから、1960年代にはその生育が確認できなくなっていました。

その後、ト沢美久氏が再発見(1979年)した植物で、その国内分布(北海道北見地方と熊本市郊外の江津湖)や生育環境の特異的なことから注目を集めました。国外ではシベリア・サハリン・カムチャッカ半島など北周極地方に、分布することが知られています。そこでは夏期雪解けとともに発芽し、短期間に開花・結実し、種子を残し越冬する生活を繰り返しているようです。しかし葛西用水内では暑い夏季は、水深2mぐらいの水底で種子のまま過ごし、水が無くなる秋から春の乾燥した寒冷期に開花・結実します。種子で冬期を過

ごす北周極地方とは、逆の生活史を繰り返しています。

今年は昨年より用水内の水量は、やや多く感じられました。2月の観察会ということで観察できる植物は少ないですが、開花している個体は昨年より多く見られました。

用水内にはコイヌガラシ、トキワハゼ、タガラシ、カズノコグサ、オオカワヂシャ、ミズハコベ、ゼニアオイ、オランダミミナグサ、ムシクサ、カラスノエンドウ、ノボロギク、ノゲシ、スズメノカタビラ、キュウリグサなどの植物が生育していました。

帰りは同じ道を植物や鳥をゆっくりと観察しながら戻ることになりました。青柳橋を過ぎたところで、鳥の観察者から歓声が上がりました。よく見ると遠くにカワセミの姿があり、しばらく双眼鏡で観察していると、突然目の前を美しい姿が飛び去っていきました。植物はミチタネツケバナとタネツケバナ、ホトケノザとヒメオドリコソウ、コハコベとイヌコハコベなどのよく似た植物の、違いについて注目しながら観察しました。

川柳文化センターに戻り、観察した植物や動物を整理しました。その結果は、開花植物26種、鳥類18種、水生動物はスジエビ、モツゴ、ヌマガイ。昆虫類はナナホシテントウ1種だけでした。注目されるキタミソウや希少種などの植物については、解説を加え観察会は終了となりました。



参加者の声

・ゆっくりと住んでいる環境を見つめるよい機会となりました。あらためて見てみると、見たことはあるけど名も知らぬ在来種なのか外来種かも分からない花や草ばかりで、ちょっと恥ずかしくなりました。細かな名前までは分からなくても、ざっくり分かるようにはなりたいなと思いました。なにかエピソードがあれば、おぼえていきやすいなとも思いました。(匿名)

・久しぶりの参加でした。印象に残ったのは、鳥たち、たくさん会えました。自然の中でカワセミを見たのは初めてでした。青とだいたい色があざやかでした。モデルっぷりもよかったので、よく見られました。モデルっぷりで言えば、最後に会ったコサギもすばらしかった！足もとの小さい草たち、木の芽、つぼみたちに春を感じました。

(G)

・今年もキタミソウの花が観察できました。昨年は、赤茶色が多かったのが、今年は緑色もありました。虫めがねで見ないとよく見えない小さな花で、人間の生活環境によって影響しやすい植物という事で、大切にしたいと思いました。又、鳥もたくさんの種類を観察し、初めてカワセミを見ました。クジャクのようなきれいな青色とオレンジ色をしてうれしかったです。(木村さん母)

・今回は、キタミソウやいろんな鳥が見られました。キタミソウの小さな花が満開でキレイでした。サギの見分け方、特徴やカラスの見分け方を教えてもらいました。大きいアオサギがとんでいるところを見られてカッコイイなと思いました。キレイなお花も帰りに見られて、春を感じました。

(木村さん子)

・キタミソウが、ふだん生活している身近な場所にある事に驚きました。花はルーペを使わないとよく見られない程小さいけれど、とてもかわいらしい花でした。絶滅危惧種のコイヌガラシも咲いているので、葛西用水のヨシやマコモなど、もう少し掘りおこして、きれいな環境になればよいの

にと思います。

(M・M)

・キタミソウを見にきたけど、虫や魚、他の物もつかまえました。(ふじ石さん)

・キタミソウをみよう！なので、それだけ見るのかと思い参加したのだが、見事に良い方にはずれた。途中途中で、雑草を観察し、名前を教えて貰い、サギ、カラスを教えて貰い、なんとカワセミ迄見られた、自然界にいるカワセミを見られたのは、とてもとても感激でした。また参加したい。

(匿名)

・去年も参加しましたが、キタミソウのことは、すっかり忘れていました。あらためて確認でき、思い出しました。又、久しぶりに葛西用水沿いを歩くことができてなつかしかったです。

(山田さん)

・今年もキタミソウが見られて嬉しかったです。去年の記憶が薄れていて、改めて1年振りに見たら、「こんなに小さかったっけ?!」と新鮮な驚きでした。鳥も色々見ることができました。中でもカワセミを見られたことが一番の感動でした。キタミソウは発芽の条件もいろいろあって、人との関係の中で上手に環境を整えていかなければ守っていけないこと等、勉強になりました。毎年キタミソウが咲けるような草加市でありつづけたと思います。(K・Y)

・キタミソウの葉っぱのかたちがおもしろかったです。(しん山さん)

・いろいろなとりがみられてよかったです。

(はるまさん)

・キタミソウは小さかったので、足元まで近づいて初めて花がみえました。生えているところを教えていただかないと自分で探すのはむずかしいと思いました。きれいな花でも外来植物だったりするので、知らないまましているとこわいなと思いました。(北山さん)

・ホトケノザ、チガヤ、ヒメオドリコソウ、タンポポがみえました。(かりんさん)

・たのしかったです。(みどりかわさん)

・色々な野鳥を見る事が出来、とても楽しかったです。中でも、カワセミは、思っているよりぷっくりしていてビックリしました。もっとスマートだと思っていました。キタミソウは、とても小さくてかわいいですね。気をつけないと踏みつけそうです。(匿名)

・キタミソウは教えていただかないとわからないほど小さく、虫眼鏡を貸してもらって近くで見ることができて良かったです。参加しないとわからないことだらけで、日頃目にしているサギやカラスの見分け方など、勉強になりました。カワセミは鮮やかな青が印象的で、見られて良かったです。植物、鳥、興味をもつことが大切だなと思いました。(匿名)

・春のように暖かく観察会日和でした。空を見上げ、鳥を見ながら葛西用水沿いを歩き、本来の目的である「キタミソウ」も川に下りて間近で見ることができ、ヘラ型の葉や小さな白い花を見て、貴重な体験が出来ました。自然の大切さを感じるには、まずは、身近な自然を知ることだと思うので、観察会は楽しみながら色々なことを知ることができる点で、私にとって良い機会になっています。そして、今日の観察会の最大のごほうびは、“カワセミ”を見られたことです。羽の青も、胸のオレンジもきれいで、やはり特別な存在です。(白鳥さん)

・キタミソウが小さい白い花で、とてもかわいかった。カワセミが目の前で見られて感動した。(藤石さん)

こんな生きもの発見 オジロビタキ 7年ぶりの飛来 村木 浩一さん

12月、オジロビタキがそうか公園にきているとの情報がたちまち伝わり、公園はカメラマンで賑やかになる。主役であることを意識しているのか、よく目の前に姿を見せては、枝の上で、シンボル

の尾っぽ上げの大サービス。だが、動きが実に素早い。良いアングルで撮らせてもらえない。一羽のオジロビタキ（若い雌）の追っかけが始まった。決まったエリア内で動いてくれるので、数日通うと、顔見知りということで、サービス満点で撮らせてもらえる。1月下旬に入っても、公園を訪れると愛らしい姿を十分に見せてくれている。オジロビタキ狙いで、市外県外から、野鳥愛好家が大勢訪れました。

【オジロビタキ特徴】

冬鳥として飛来。訪れるのは雌か若鳥。単独で見られることが多い。越冬する個体も少ない。キビタキ属では珍しく地上捕食が多く、昆虫類や木の実も採餌するとのこと。



(写真提供 小久江 修次さん)

生きもの紹介します

◆小さな旅人 ヒメアカタテハ 吉田 圭子さん

息子が「ヒメアカタテハについて調べたい」と言う。タテハチョウ科のオレンジ×黒の美しい蝶で、ツマグロヒョウモンやアカタテハに比べると一回り小さくて可愛い。冬でもたまに見かける蝶なので、息子がそう言うなら一緒に調べてあげようか・・・と二人で調べ始めると、これが驚きのスーパーミラクル蝶々だった。驚きを通り越して感動すら覚えてしまい、まだヒメアカタテハを知らない方にも、是非この奇跡の蝶の生態を知

ってほしいと思い、ペンをとった次第です。

ヒメアカタテハは、翅を開くと40~50mmの蝶です。幼虫は、写真で見ると黒っぽくてツンツントゲトゲしたイモムシで、終齢幼虫では体長40mmほどになります。発生は一年を通して数回、北海道から南西諸島まで分布します。関東以南で越冬可能とされており、ここ、草加では、冬でも時折ひらひらと飛んでいる姿を見かけるので、成虫越冬もしているのでしょう。温暖化により北上しつつある種の一つです。

幼虫の食草は、ハハコグサ・ヨモギ・ゴボウ・イラクサ科の植物など。明るく開けた環境の草本に生息し、全幼虫期で造巢性があります。なるほど、それで成虫を良く見かけるのに、幼虫を一度も見たことがなかったのかと納得した。葉っぱのお家の中で包まって暮らしています。一方、成虫はノアザミやシロツメグサに良く集まります。そういえば四つ葉のクローバーを探しているとかなりの頻度で彼らに出会います。この写真も、シロツメグサで吸蜜中に撮影したものです。(写真)

さて、この蝶の驚きの生態はここからです。この日本全土に分布しているヒメアカタテハ、調べてみると世界でも南極大陸を除く全ての大陸に分布していました。移動性が強く、越冬できないような寒い地域にも、夏から秋にかけて侵入や発生を繰り返す。関東で夏の終わりから秋にかけて良く見かけるようになるのはこのためです。

ヒメアカタテハにはいくつかの有名な渡りのルートがありますが、中でもアフリカ大陸から北ヨーロッパまで何世代もかけて飛んでいくというルートには、驚きよりも神秘性を感じてしまいます。その飛翔は、高度300m以上、平均時速45kmにもなるという。移動距離は実に15,000km。同じタテハチョウ科の渡り蝶であるオオカバマダラやアサギマダラを遥かに超える距離です。それを5~6世代もかけて遥々と旅をします。

ところで、このヒメアカタテハは体重1g以下、脳はピンの先ほどといいます。親や経験を積んだ

年上の蝶から学ぶ機会もないというのに、彼らは一体どのようにして目指すべき地を知るのでしょうか。想像してみてください。3月、モロッコを飛び立ったヒメアカタテハたちは、地中海を渡りアルプスを越え、やがて北ヨーロッパの地に辿り着く。そしてまた、夏の終わりから秋にかけてモロッコを目指して飛び立つのです。このとき空高く気流に乗って南下を始める蝶たちは、春にモロッコを飛び立った蝶たちの、何世代も後の子孫です。故に、世代を繰り返しながら移動する彼らのこの旅は、常に片道切符の運命なのです。

こうして一世一代の、そして何世代にも及ぶ旅に出たヒメアカタテハたちは、ただひたすら移動し、繁殖し、また移動するのです。目的の地は、彼らにとって懐かしい故郷なのか、それとも未だ見ぬ新天地なのか。命尽きていく蝶たちは、自分の人生が実はまだ旅の途中である事を知っているのでしょうか。彼らは本能の命ずるままに、遥か彼方の目的の地を目指すのです。彼らについて知れば知るほど、種としてのダイナミックな生き様にロマンを感じずにはいられません。ヒメアカタテハの生態については、まだ謎に包まれている部分も多いという。今後の研究により、その謎は解明されていくのかもしれないが、ヒメアカタテハの真実は、依然として神秘のベールの向こう側です。

参考文献：「日本蝶類科学学会 バタフライサイエンスニュースレターNo.5」
「イモムシハンドブック」



◆モズのはやにえ

吉田 しん山さん

うちのにわに、モズがきました。キンカンの木に、カナヘビをくしぎしにしていきました。モズはとったえものを木のえだにさしていくしゅうせいがあります。それを、「モズのはやにえ」といいます。

でも、うちにきたモズは、はやにえをわすれてしまったようで、それからとりにきませんでした。



身近な生きものの見分け方 カラス

近岡 勝夫さん

私たちの身近にいる生きものたち。みんな、名前があります。よく観察し、特徴を見つけることで名前がわかるようになります。名前がわかるとより一層、生きもの調査が楽しくなりますよ。今回は、カラスについて、紹介します。

カラスは、人にとって厄介者として見られておりますが、反面非常に頭がよく、最近では水道の栓をひねり水を飲んだり、浴びたりする行為がニ

ュースになりました。

日本で生息しているカラスは複数いますが、代表的な2種の違い（特徴）を紹介します。

ハシブトガラスとハシボソガラスの違い

項目 \ 種類	ハシブトガラス	ハシボソガラス
体の長さ	約57 c m	約50 c m
嘴（くちばし）の大きさ	大きくて太い	小さくて細い
頭部	段になっておでこが出ている	段差がなく、なめらか
鳴き声	澄んだ声（カーカー）	濁った声（ガーガー）
※住まい	街の中、公園の森、海岸など	郊外（田園など開けた場所）

※住まいはどちらも、現在の環境に順応しており、各地でみられるようになりました。



ハシブトガラス



ハシボソガラス

私の生きもの観察路 稲荷五丁目～葛西用水周辺

草野 美津枝さん

フィールドを観察するようになって6年が過ぎました。この地域は、住宅、田畑、工場、用水があり、その頃は屋敷林もある多様な様相が自然観察には好条件でした。

葛西用水の桜は、花見の頃は大勢の人が訪れ賑やかです。運が良ければカワセミも観られます。

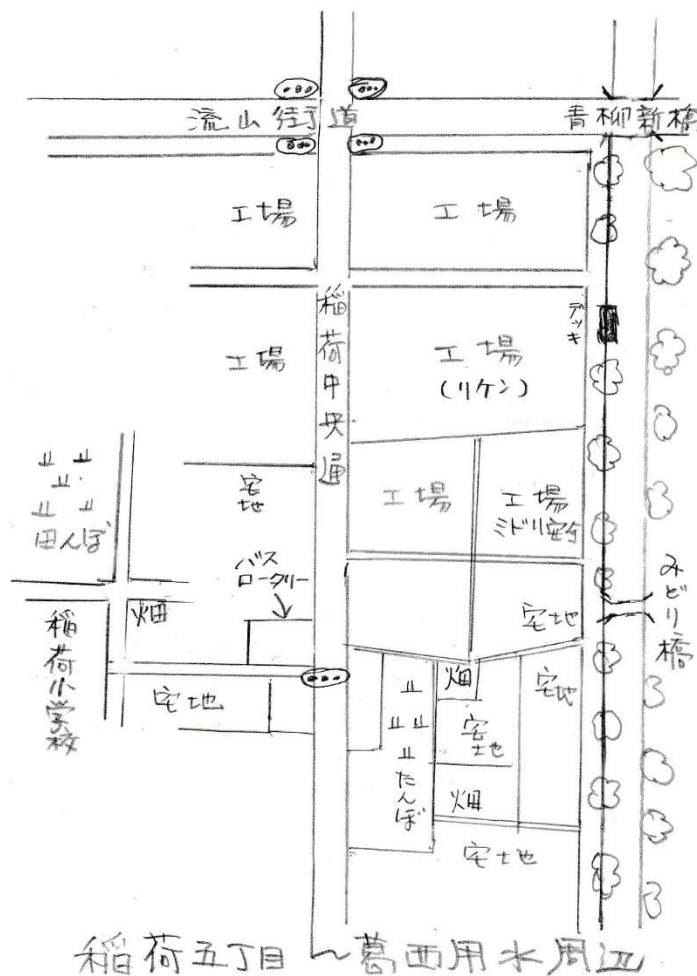
田んぼの畦には、シロバナサクラタデが咲き、場違いなハナニラ（園芸種）に驚かされる一方、他の田んぼでは準絶滅危惧種のミズワラビがある等と色々と面白いところです。

また、工場のフェンス下で咲く、早春のナズナや、冬寒時オオキバナカタバミの黄色は心を明るくしてくれます。奥の方には、ヤブカンゾウが見られる事もありますが、いずれの工場も定期的に草刈がされますので「皆きれい過ぎでは？」と思うのは、私だけでしょうか。

2016年11月、小学校にタヌキが現れた時はとてもラッキーでした。しかし、開発は日々進み、屋敷林は姿を消し、それ以降の春には毎年庭で鳴くウグイスの鳴き声を聴くことはありません。

今年3月初旬まで用水の護岸を整備していましたが、カワセミは戻ってきてくれるのでしょうか？

私にも変化はありました。観察中に、散歩をしている方から「カワセミ観ましたか？」とか、桜並木や用水付近に対する要望等、話しかけられる事が多くなりました。「そうか生きもの調査員」のバッジの効果でしょうか。皆さん自然に関心はあるけれど、一歩前には・・・自然好きな私は、もう暫くの間、散歩+1歩（観察）の四歩を続けようと思います。



トピックス

サシバとタゲリ

近岡 勝夫さん

サシバ

1月末に秋葉さんが中川付近でサシバを発見する。多分渡りの途中、中川で休憩のため立ち寄ったのでしょう。大きさは約50cm前後、ハシボソガラスほどです。渡りをする日本のタカの中で最も人気があります。現在、このサシバが減少しており、環境省レッドリストでは、絶滅危惧Ⅱ類として指定されました。



(写真提供 秋葉 時夫さん)

タゲリ

2月、今まで草加でほとんど確認されたことがないタゲリ(3羽)を、柿木浄水場付近で発見する。警戒心が強いので遠巻きに、それも隠れるように見なければならない。特徴は、頭が黒くて長い冠羽、それに翼の色が美しく、光の角度によってはタマムシのように輝きます。



(写真提供 秋葉 時夫さん)

個別調査結果(平成31年1月～3月)

1月 区域別一覧

区分	No.	調査種	第1区域	第2区域	第3区域	第4区域	第5区域	第6区域	第7区域	第8区域	第9区域	第10区域	確認数
植物	1	在来タンポポ											0
	2	セイヨウタンポポ	○			○		○	○	○	○		6
	3	セイタカアワダチソウ						○	○				2
	4	カントウヨメナ						○					1
	5	キタミソウ								○			1
	6	スミレ類								○			1
	7	ミソソバ											0
	8	イヌタデ								○			1
	9	ツユクサ											0
	10	ヨシ(アシ)											0
	11	ハンノキ											0
	12	エノキ											0
	13	クヌギ											0
	14	幹周リ2m以上の樹木											0
鳥	15	メジロ	○		○	○		○		○	○		6
	16	キジバト	○		○	○		○	○	○	○	○	8
	17	コサギ	○		○	○		○	○	○	○	○	7
	18	カルガモ	○		○	○		○	○	○	○		7
	19	カワセミ			○			○		○	○		4
	20	コゲラ								○	○		2
	21	ツバメ											0
	22	ツバメの巣											0
	23	ハクセキレイ	○		○	○		○	○	○	○		7
	24	モズ			○	○			○	○	○		4
	25	ツグミ	○		○	○		○	○	○	○		7
	26	オオヨシキリ											0
	27	シジュウカラ	○		○	○	○	○	○	○	○		8
	28	オナガ	○		○	○		○	○	○	○		7
昆虫・蝶・その他	29	モンシロチョウ											0
	30	アゲハチョウ											0
	31	アオスジアゲハ											0
	32	ナガサキアゲハ											0
	33	ツマグロヒョウモン											0
	34	アカボシゴマダラ											0
	35	カブトムシ											0
	36	ニイニイゼミ											0
	37	クマゼミ											0
	38	ツクツクボウシ											0
	39	オオカマキリ									○		1
	40	シオカラトンボ											0
	41	トノサマバッタ											0
	42	アマガエル									○		1
区分	No.	調査種	第1区域	第2区域	第3区域	第4区域	第5区域	第6区域	第7区域	第8区域	第9区域	第10区域	確認数
			9	0	10	10	1	11	9	13	16	2	

2月 区域別一覧

区分	No.	調査種	第1区域	第2区域	第3区域	第4区域	第5区域	第6区域	第7区域	第8区域	第9区域	第10区域	確認数
植物	1	在来タンボポ											0
	2	セイヨウタンポポ	○		○	○			○		○	○	6
	3	セイタカアワダチソウ			○								1
	4	カントウヨメナ			○								1
	5	キタミソウ									○		1
	6	スマイレ類											0
	7	ミゾソバ											0
	8	イヌタデ			○								1
	9	ツユクサ											0
	10	ヨシ(アシ)											0
	11	ハンノキ				○							1
	12	エノキ											0
	13	クヌギ											0
	14	幹周り2m以上の樹木							○				1
鳥	15	メジロ	○	○		○			○	○	○	○	7
	16	キジバト	○	○		○		○	○	○	○	○	8
	17	コサギ			○	○		○		○	○	○	5
	18	カルガモ			○	○		○	○	○	○	○	7
	19	カワセミ						○	○		○		3
	20	コゲラ								○	○		2
	21	ツバメ											0
	22	ツバメの巣				○							1
	23	ハクセキレイ	○		○	○		○	○	○	○	○	8
	24	モズ	○			○			○	○	○		4
	25	ツグミ	○			○			○	○	○		5
	26	オオヨシキリ											0
	27	シジュウカラ	○	○		○		○	○	○	○	○	8
	28	オナガ	○		○	○		○	○	○	○	○	7
昆虫・蝶・その他	29	モンシロチョウ											0
	30	アゲハチョウ											0
	31	アオスジアゲハ											0
	32	ナガサキアゲハ											0
	33	ツマグロヒョウモン											0
	34	アカボシゴマダラ											0
	35	カブトムシ											0
	36	ニイニイゼミ											0
	37	クマゼミ											0
	38	ツクツクボウシ											0
	39	オオカマキリ											0
	40	シオカラトンボ											0
	41	トノサマバッタ											0
	42	アマガエル											0
区分	No.	調査種	第1区域	第2区域	第3区域	第4区域	第5区域	第6区域	第7区域	第8区域	第9区域	第10区域	確認数
		確認数	8	3	8	12	0	6	10	9	13	8	

3月 区域別一覧

区分	No.	調査種	第1区域	第2区域	第3区域	第4区域	第5区域	第6区域	第7区域	第8区域	第9区域	第10区域	確認数
植物	1	在来タンボポ	○			○			○			○	4
	2	セイヨウタンポポ			○	○		○	○	○	○	○	7
	3	セイタカアワダチソウ											0
	4	カントウヨメナ											0
	5	キタミソウ									○		1
	6	スマイレ類	○		○	○		○		○	○	○	7
	7	ミゾソバ											0
	8	イヌタデ											0
	9	ツユクサ											0
	10	ヨシ(アシ)									○		1
	11	ハンノキ				○							1
	12	エノキ											0
	13	クヌギ											0
	14	幹周り2m以上の樹木				○							1
鳥	15	メジロ	○			○			○	○	○	○	6
	16	キジバト	○			○		○	○	○	○	○	7
	17	コサギ	○		○	○		○		○	○	○	7
	18	カルガモ	○		○	○		○	○	○	○	○	8
	19	カワセミ				○			○	○	○		3
	20	コゲラ									○		1
	21	ツバメ								○	○		2
	22	ツバメの巣											0
	23	ハクセキレイ	○		○	○		○	○	○	○	○	8
	24	モズ							○	○	○		2
	25	ツグミ	○		○	○		○	○	○	○		7
	26	オオヨシキリ											0
	27	シジュウカラ	○		○	○		○	○	○	○	○	7
	28	オナガ	○			○		○	○	○	○	○	6
昆虫・蝶・その他	29	モンシロチョウ	○		○	○		○	○	○	○	○	8
	30	アゲハチョウ	○										2
	31	アオスジアゲハ								○			0
	32	ナガサキアゲハ											0
	33	ツマグロヒョウモン				○							1
	34	アカボシゴマダラ								○			1
	35	カブトムシ											0
	36	ニイニイゼミ											0
	37	クマゼミ											0
	38	ツクツクボウシ											0
	39	オオカマキリ									○		1
	40	シオカラトンボ											0
	41	トノサマバッタ											0
	42	アマガエル									○		1
区分	No.	調査種	第1区域	第2区域	第3区域	第4区域	第5区域	第6区域	第7区域	第8区域	第9区域	第10区域	確認数
		確認数	12	0	8	16	0	10	9	16	19	10	

注) 報告のとおり記載しています。

○個別調査年度結果（平成30年4月～31年3月）

区分	No.	調査種	月												区域										確認 区域 数
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
植物	1	在来タンポポ																							8
	2	セイヨウタンポポ																							10
	3	セイタカアワダチソウ																							9
	4	カントウヨメナ																							8
	5	キタミソウ																							1
	6	スマレ類																							9
	7	ミゾソバ																							6
	8	イヌタデ																							10
	9	ツユクサ																							10
	10	ヨシ(アシ)																							8
	11	ハンノキ																							4
	12	エノキ																							6
	13	クヌギ																							4
鳥	14	幹周り 2 m以上の樹木																							4
	15	メジロ																							9
	16	キジバト																							10
	17	コサギ																							8
	18	カルガモ																							10
	19	カワセミ																							7
	20	コゲラ																							5
	21	ツバメ																							10
	22	ツバメの巣																							6
	23	ハクセキレイ																							9
	24	モズ																							9
	25	ツグミ																							9
昆虫・蝶・その他	26	オオヨシキリ																							3
	27	シジュウカラ																							10
	28	オナガ																							10
	29	モンシロチョウ																							10
	30	アゲハチョウ																							10
	31	アオスジアゲハ																							10
	32	ナガサキアゲハ																							7
	33	ツマグロヒョウモン																							10
	34	アカボシゴマダラ																							9
	35	カブトムシ																							1
	36	ニイニイゼミ																							9
	37	クマゼミ																							3
	38	ツクツクボウシ																							8
昆虫・蝶・その他	39	オオカマキリ																							7
	40	シオカラトンボ																							10
	41	トノサマバッタ																							4
	42	アマガエル																							5
区分	No.	調査種	月												区域										確認 区域 数
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
		確認数	31	35	38	35	35	39	29	34	26	19	19	25	32	23	33	35	19	30	35	36	41	33	

凡例  確認した月
 確認した区域

※ 個別調査結果について、調査した月の翌月10日までにメール、FAX、郵送等で報告していただいておりますが、新田サービスセンター、松原サービスセンター、谷塚サービスセンターでも受領しますので、報告書を封筒に入れ環境課宛て[生きもの調査報告書]と明記し、お近くのサービスセンターをご利用ください。

○調査区域

区域	町 名
1	瀬崎
2	谷塚、谷塚町
3	谷塚上町、谷塚仲町、両新田東町、両新田西町、新里町、遊馬町、柳島町
4	吉町、手代、中央、高砂、住吉、神明
5	草加、西町、氷川町
6	稻荷、青柳1丁目
7	松江、弁天、栄町、中根、八幡町
8	旭町、新善町、金明町、清門、長栄、新栄
9	青柳（1丁目を除く）、青柳町、柿木町
10	松原、花栗、苗塚町、小山、北谷、北谷町、原町、学園町

○42種以外の生きもの（平成31年1月～3月）

月 区分	1月	2月	3月
植物	58 (内、外来33種)	70 (内、外来36種)	114 (内、外来52種)
鳥	43	40	35
昆虫等	9	12	16
計	110	122	165

注) 詳細は市ホームページに掲載

○42種以外の生きもの年度結果（平成30年4月～31年3月）

月 区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
植物	169 (内、外来70種)	194 (内、外来86種)	210 (内、外来90種)	197 (内、外来80種)	183 (内、外来80種)	203 (内、外来85種)	107 (内、外来41種)	99 (内、外来47種)	88 (内、外来40種)	58 (内、外来33種)	70 (内、外来36種)	114 (内、外来52種)
鳥	33	28	15	14	10	34	35	39	43	43	40	35
昆虫等	51	66	63	71	81	83	75	35	21	9	12	16
計	253	288	288	282	274	320	217	173	152	110	122	165

第6回そうか生きもの集合調査 観察リスト

- ・開催日 平成31年2月24日（日）
- ・場 所 葛西用水青柳地区
- ・調査種 植物中心
- ・参加者 44人（うち子供10人）
- ・確認数 植物26種、鳥18種、その他4種

黄色塗りつぶしは個別調査42種

区分	No.	生きもの名	No.	生きもの名
植物26種	1	オオカワヂシャ	14	タネツケバナ
	2	イヌコハコベ	15	チチコグサモドキ
	3	オオイヌノフグリ	16	トキワハゼ
	4	オランダミミナグサ	17	ナズナ
	5	カズノコグサ	18	ノゲシ
	6	カラスノエンドウ	19	ノボロギク
	7	キタミソウ	20	ヒメオドリコソウ
	8	コイヌガラシ	21	フラサバソウ
	9	キュウリグサ	22	ホトケノザ
	10	スズメノカタビラ	23	ミズハコベ
	11	セイヨウタンポポ	24	ミチタネツケバナ
	12	ゼニアオイ	25	ムシクサ
	13	タガラシ	26	ヨーロッパタイトゴメ
鳥18種	1	カルガモ	10	スズメ
	2	カワラヒワ	11	ダイサギ
	3	カワセミ	12	ツグミ
	4	キジバト	13	ハクセキレイ
	5	コガモ	14	ハシボソガラス
	6	コサギ	15	バン
	7	シジュウカラ	16	ヒヨドリ
	8	シメ	17	ムクドリ
	9	ジョウビタキ	18	メジロ
その他4種	1	テントウムシ	3	ヌマガイ
	2	スジエビ	4	モツゴ

集合調査のご案内

第3回

第4回

開催日時	令和元年7月23日（火）	令和元年8月20日（火）
集合場所	そうか公園	獨協大学学生センター雄飛ホール
集合時間	7時50分	8時50分
内容	生きもの全般 そうか公園、中川河川敷	生きもの全般 獨協大学芝生広場、松原団地記念公園
申込み	7月19日（金）までに環境課へ	8月16日（金）までに環境課へ
交通	パリポリくんバス：獨協大学前駅東口 7：29発 柿木公民館行 そうか公園下車	東武スカイツリーライン獨協大学前駅西口 徒歩5分

※ミニ調査会 令和元年6月15日（土）谷塚文化センター8時50分集合

読者からの投稿写真

■鈴木 功さん（撮影場所：柿木田んぼ）

■高野 信一さん（撮影場所：辰井川周辺）



イチモンジセセリ



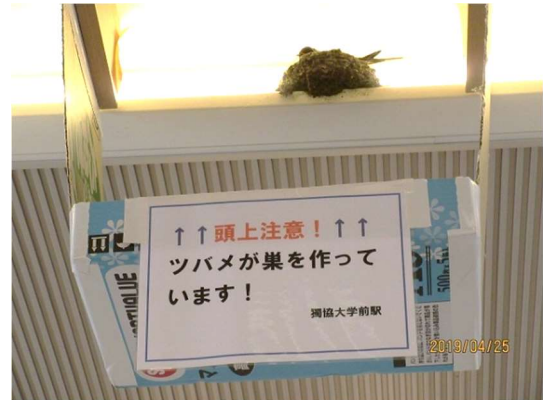
ノビタキ ♂

■彦坂 正治さん（撮影場所：新栄町綾瀬川）

■河村 恵子さん（撮影場所：獨協大学前駅構内）



クイナ



今年も東武鉄道の協力で
ツバメが子育て中です

写真大募集

読者の皆さんが撮影した生きものの写真を募集しています。草加市内で撮影した1年以内の写真で、氏名、題名、撮影日、撮影場所を明記し、事務局までメール等をお願いします。なお、誌面の都合により、掲載できない場合がありますのでご了承ください。

そうか生きものだより編集委員会委員
菅 藤男 近岡 勝夫
村木 浩一 草野 美津枝

※より充実した生きものだよりをお届けするため、編集委員を募集しています。お気軽に環境課まで連絡してください。

【編集後記】

5月1日、元号が平成から令和に変わり、新たなスタートを切りました。皆さんはどんな気持ちで迎えたのでしょうか。また、大型連休はどのように過ごしたのでしょうか。私は連日、趣味の農作業に汗を流しました。

新緑がまぶしい季節、野に山に出て、生きものたちとふれあいましょう。 [K]



【アリアケスミレ】

スミレ科スミレ属

花は、白地に紫～赤紫の紫条が入る。

地色に色がつくものもある。

名前の由来は、花の色が有明（夜明け）の空の色のようなから。

花弁は長さ約2.5cm。

人家近くのやや湿ったところに生える。

イラスト：草野 美津枝さん